

2025年12月17日「水」 15時15分〜17時30分

慶應義塾高等学校 日吉協育棟
日吉協育ホール

遠いからだの記憶、痕跡をたどる。

人の「こころ」はどこにあるのだろうか？

舞踏は何からはじまる？

「こころ」から？「からだ」から？

「かたち」はあるの？

土方巽の舞踏に現れるさまざまな異形な

「かたち」は水槽の底に澱のように留まって

屈まっている、泥に入っただかたちづくられた

「かたち」である。

「かたち」になろうとして崩れ、崩れては

また「かたち」になろうとする、無時間と

いう時間のなかで始まりも終わりもなく

かたちづくられていく、鳥、馬、牛、花、

植物、老婆、マヤ、ニワトリ、幽霊

それらの「かたち」。

「かたち」は「いのち」を内包し、いのちが
かたちに追いつがりがり、かたちがいのちに
追いつがる。



撮影：Tomoko Kosugi

対象 | 塾生(大学生、大学院生、一貫教育校生)・教職員

見学 | 塾生・教職員の見学は自由です

参加定員 | 30名(最大)申し込み制

費用 | 無料

申込方法 | 以下のURLよりお申し込みください。
申込者多数の場合選考を行い、結果を
お知らせいたします。

<https://forms.gle/hSAozNuNh8zfh4xT7>



申込締切 | 2025年12月8日(月)

◎本企画は録画され、教養研究目的に限って利用されることがあります。

◎Tシャツ・ジャージなど体を動かしやすい服装で参加してください。更衣室を用意します。

PROFILE | 小林嵯峨 Saga Kobayashi

1968年に土方巽の舞踏に出会い衝撃を受け翌年〈土方巽燐熾大踏鑑〉に入門。新宿アートシアター/「四季のための二十七晩」、西武劇場/「静かな家」、京都大学西部講堂/「夏の嵐」等数々の土方巽作品に主要メンバーとして出演。1975年独立、立花隆一と共に〈彗星倶楽部〉を結成、独自の活動を開始する。その後1985年には〈小林嵯峨+篤NOSURI〉を結成し、無意識の世界に参入する「アウラシリーズ」を行う。シアターラム/「月姫(GEKKI)-無意識の花」など。その後2019年からはソロおよびグループにて「無題シリーズ」を行い舞踏の原点へと朔行、そこから再度新たな視線や可能性を探る作業を行っている。ヨーロッパをはじめ海外での活動も多い。(1980年にはJapan Festivalに参加、芦川羊子とともに土方巽作品「日本の乳房」を上演し、欧州6か国を巡演。)

2024年自身の集大成とも言える「幻の字の子供」をテルブシコールにて上演、この作品に於いて2024年度舞踊批評家協会賞を受賞する。同年1977年のソロ公演「にがい光」の上映、WS、パフォーマンスをYale大学にて行う。

著書：『うめの砂草—舞踏の言葉』/アトリエ・サード

主催：慶應義塾大学教養研究センター/(担当)小菅隼人(慶應義塾大学理工学部教授) 共催：慶應義塾高等学校/(担当)古川晴彦(慶應義塾高等学校国語科教諭)

協力：ポートフォリオBUTOH(慶應義塾大学アート・センター) お問い合わせ：慶應義塾大学教養研究センター toiwase-lib@adst.keio.ac.jp

・2025年度 日吉教育活動等支援予算プロジェクト事業で行われています。 ・塾生は将来開発ポイント対象プログラム 参加の場合2P/見学のみIP

・本事業は2025年度科学研究費「動きのアーカイヴ」における実証的研究—アーカイヴの創造的利用における国際連携の協力をうけています。

